

平成25年度公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート（1）

（区分）**国補**・県単

事業名	中山間地域総合整備事業（国補）		事業箇所	山梨市牧丘町		地区名	牧丘	事業主体	山 梨 県
(1)事業着手年度	H11年度	(2)事業期間	H11年度～H20年度	(3)完了後経過年数	5年	(4)総事業費	1,943百万円		
(5)事業着手時点の課題・背景						(8)事業位置図等			
<p>本地区は、県の中北部に位置し、山沿いの地域であるため、気候は寒暖の差が大きく、果樹栽培に適しており、ブドウ、リンゴの栽培が盛んである。</p> <p>しかしながら、中山間地域特有の急峻な地形や担い手の高齢化、後継者不足などに起因し、耕作放棄地の増加や、近年では鳥獣による農作物被害が深刻となるなど、農業生産上の課題を抱えており、地域力の低下が懸念されていた。</p> <p>このため、農業生産の安定を図るための生産基盤及び鳥獣害防止柵の整備や都市農村交流を促進するための拠点整備を総合的に実施した。</p>						省略			
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果									
<p>（事前評価未実施）</p> <p><input type="checkbox"/> 主要目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 <p><input type="checkbox"/> 副次目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業用排水能力の向上 ・ 鳥獣被害の軽減 <p><input type="checkbox"/> 副次効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化・歴史的資源等の保存・復元 									
(7)整備内容（目標達成の方法）									
<p>農道（1路線）L=699 m W=7.0m</p> <p>排水路（7路線）L=4,753 m W0.6～0.9×H0.6～1.5m</p> <p>活性化施設 1棟 用地整備・交流施設基盤整備 A=1.2ha</p> <p>農村公園 A=0.6ha 鳥獣害防止施設 L=53,813m H=2.3m</p>									

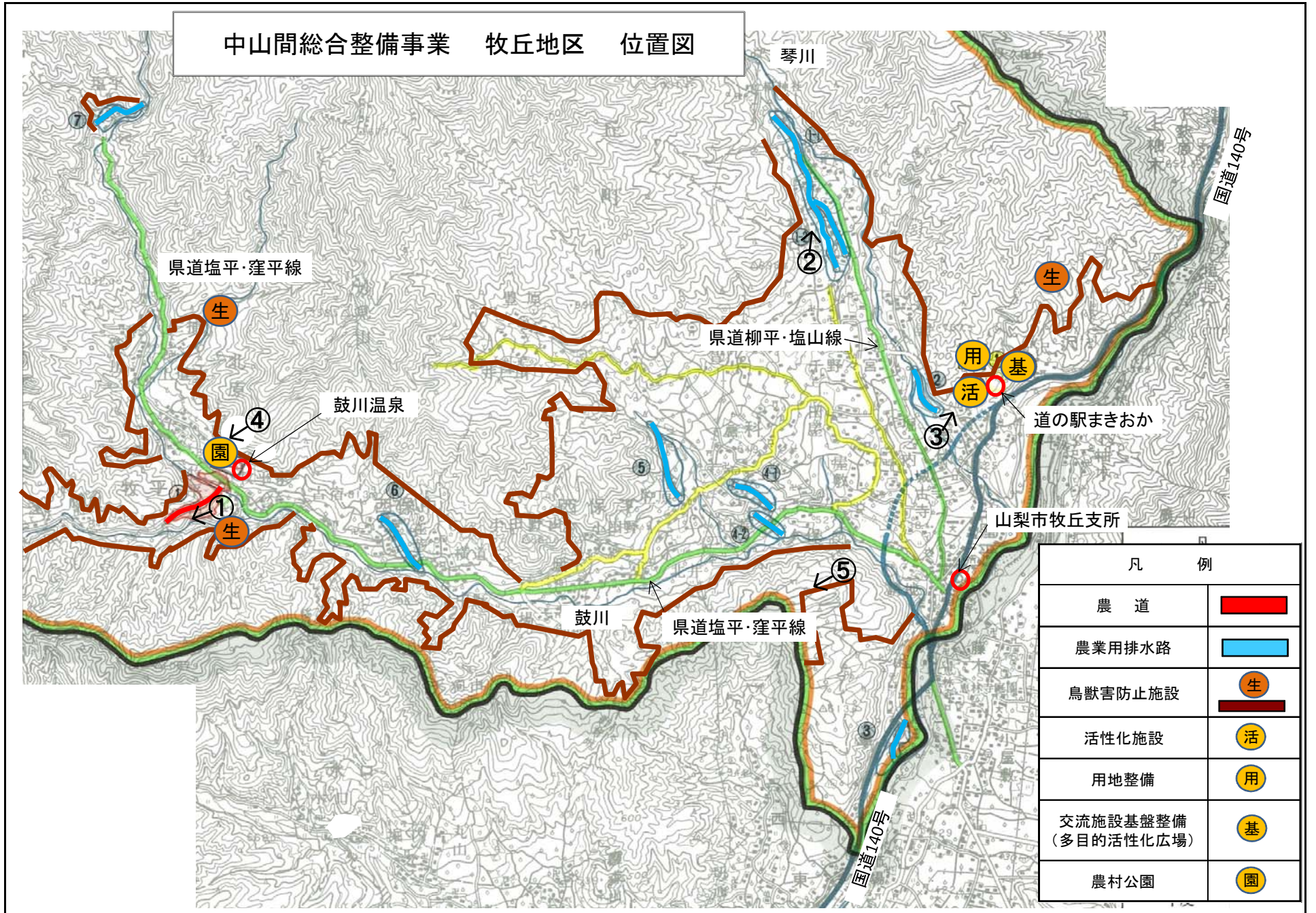
2. 評価シート（1）

<p>(1)事業貢献度 < (良) ・ 不良 ></p> <p>(理由) 農道、用排水路が整備されたことにより、農作物の品質向上や運搬時間が短縮されるとともに施設管理が容易となり、農業経営の改善が図られた。 また、農村公園、活性化施設整備等により都市住民との交流や地域住民の憩いの場を創設できた。</p> <p>① 主要目標 農業生産力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業所得の増加額</td> <td>1,203千円/ha→設定せず</td> <td>1,241千円/ha</td> </tr> <tr> <td>農村公園受益者数</td> <td>673人/千㎡→設定せず</td> <td>873人/千m2</td> </tr> <tr> <td>交流施設利用者数</td> <td>55人/日/施設→設定せず</td> <td>91人/日/施設</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業所得の増加額が、評価基準値1,203千円/haを上回っている。 ・ 面積当たり農村公園受益者数が、評価基準値673人/千m2を上回っている。 ・ 交流施設利用者数が、評価基準値55人/日/施設を上回っている。 <p>② 副次目標 農業用排水能力の向上 鳥獣被害の軽減</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>1.0→設定せず</td> <td>1.74</td> </tr> <tr> <td>年想定被害軽減額</td> <td>245千円/ha/年→設定せず</td> <td>417千円/ha</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 排水路の整備により、排水能力向上率が1.74となり、基準値1.0以上を満たしている。 ・ 計画防護面積当たり年想定平均被害軽減額が、評価基準値245千円/ha/年を上回っている。 <p>③ 副次効果 文化・歴史的資源等の保存・復元</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化・歴史的資源等の保存・復元</td> <td>老朽化した藤村式建築の旧室伏学校を移築し、活性化施設として再生させ、郷土資料、市所蔵美術品等の展示にも活用している。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ その他の事業効果の発現状況 鳥獣害防止柵の設置により、農産物被害が軽減されるとともに、民家近くに出没していた獣が姿を現さなくなり生活環境が改善された。</p>	指標	着手時点数値等	評価時点数値	農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	1,241千円/ha	農村公園受益者数	673人/千㎡→設定せず	873人/千m2	交流施設利用者数	55人/日/施設→設定せず	91人/日/施設	指標	着手時点数値等	評価時点数値	用排水能力向上率	1.0→設定せず	1.74	年想定被害軽減額	245千円/ha/年→設定せず	417千円/ha	項目	内容	文化・歴史的資源等の保存・復元	老朽化した藤村式建築の旧室伏学校を移築し、活性化施設として再生させ、郷土資料、市所蔵美術品等の展示にも活用している。	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 < (有) ・ 無 ></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,953百万円</td> <td>1,943百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H11～H16</td> <td>H11～H20</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>1,433百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>1,452百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.01</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.19</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 経済効果は、生産基盤整備を対象に算出している。 ※ 平成16年度再評価地区 総事業費 1,834百万円、工期 H11～H19に見直し</p> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総事業費：用排水路について現況利用が可能な箇所の見直しを行い、延長減に伴う事業費の減とした。さらに、当初想定されなかった鳥獣害防止柵を新たに取り組むため、事業費が増加となった。 ・ 工期：鳥獣害防止柵の追加実施に伴う工期の延長。 ・ 費用：鳥獣害防止柵の追加実施に伴う生産基盤整備費用の増。 ・ 便益：鳥獣害防止柵の追加実施に伴いB/Cが上昇した。 <p>(3)事業実施による環境の変化 < (有) ・ 無 ></p> <p>① 自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤整備を進めたことで耕作放棄地の発生防止につながり地域の良好な農村景観が保たれている。 <p>② 生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣害防止柵の設置により、農産物被害が軽減されるとともに、民家近くに出没していた獣が姿を現さなくなり生活環境が改善された。 ・ 活性化施設と多目的活性化広場を道の駅「まきおか」と併設することにより、相乗効果を高め、都市住民と地域の交流する機会が増えた。 ・ 農村公園の整備により、各種イベントやスポーツ広場として利用され、その周辺地域の活動拠点として位置付けられている。 <p>③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用排水路の実施にあたり、可能な限り環境に配慮した自然型水路による整備を実施した。 	項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,953百万円	1,943百万円	工期	H11～H16	H11～H20	経済効率性	費用	1,433百万円	便益	1,452百万円	B/C	1.01			1.19
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																											
農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	1,241千円/ha																																											
農村公園受益者数	673人/千㎡→設定せず	873人/千m2																																											
交流施設利用者数	55人/日/施設→設定せず	91人/日/施設																																											
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																											
用排水能力向上率	1.0→設定せず	1.74																																											
年想定被害軽減額	245千円/ha/年→設定せず	417千円/ha																																											
項目	内容																																												
文化・歴史的資源等の保存・復元	老朽化した藤村式建築の旧室伏学校を移築し、活性化施設として再生させ、郷土資料、市所蔵美術品等の展示にも活用している。																																												
項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																											
総事業費	1,953百万円	1,943百万円																																											
工期	H11～H16	H11～H20																																											
経済効率性	費用	1,433百万円																																											
	便益	1,452百万円																																											
	B/C	1.01																																											
		1.19																																											

評価シート（2）

<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 <input type="radio"/></p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <input type="radio"/> 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/></p>
<p>① 社会経済状況の変化 ・なし ② 関連計画・関連事業の状況の変化 ・なし ③ 事業環境等の変化 ・事業実施期間中に鳥獣被害が顕著になったため、鳥獣害対策を実施。</p>	<p>(理由) ・なし (具体的反映策) ・なし</p>
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <input type="radio"/> 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/></p>	<p>(理由) ・今回の事後評価において、所得増加額、施設利用状況等が基準値を上回り十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p>
<p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期： 年度 ・方法：</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <input type="radio"/> 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/></p> <p>(理由) ・なし (具体的反映策) ・なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <input type="radio"/> 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/></p>	<p>(9) その他特筆すべき事項 <input type="radio"/> 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/></p>
<p>(理由) ・なし (具体的改善策) ・なし (既に実施した改善策の内容と効果) ・なし</p>	<p>・なし</p>

3. 添付資料シート（1）





着工前
農道の幅員が狭く、通作などに支障を来していた。

①農道



完成後
農道の整備により、農耕車が容易にすれ違えるなど、安全性と農作業の利便性が向上された。



着工前
通水断面が狭く、未改修の土水路であるため、少量の雨量でも溢水し、畑の表土を押し流すことが、度々あった。

②用排水路



完成後
自然石を利用し、環境に配慮した水路整備により、流下能力が高まり、畑が水食されることが無くなった。

③活性化施設・交流施設基盤整備



老朽化した藤村式建築の旧室伏校舎を移築し、活性化施設として再生させ、多目的広場と併せて地域住民の活動及び各種交流イベントの場として利用している。



活性化施設(内部)

農村住民や子供達の交流の場として活用するなど多目的に利用されている。



多目的活性化広場



④農村公園



鼓川温泉の隣接地にあずまや、トイレを設置した農村公園では、各種地域イベントが開催されている。



実施前

⑤鳥獣害防止施設



シカとイノシシによる獣害被害を軽減するため、柵高2.3mで鳥獣害防止柵を設置。